

病害虫発生・防除情報メールサービス

大阪府環境農林水産部農政室

特に注意！（10月）

野菜類全般(キャベツ等)：シロイチモジヨトウ



幼虫

特徴

- ◆ あぶらな科野菜(キャベツ等)、ねぎでの発生が多いが、しゅんぎく、まめ類、なす科野菜、花き類等多くの作物を加害する。

防除のポイント

- ◆ 若齢幼虫の防除に重点を置く。卵塊や分散前の幼虫は、葉ごと取り除く。
- ◆ ねぎでは葉身内に食入し、薬剤が届きにくくなるので、早期発見に努める。
- ◆ 発生を認めたら、コテツフロアブル(キャベツ、ねぎなど)、スピノエース顆粒水和剤(キャベツ、ねぎなど)等を散布する。

令和6年9月26日発出の病害虫発生予察注意報第6号「シロイチモジヨトウ」についてもご参照ください。

https://www.pref.osaka.lg.jp/documents/84527/2409_chuuihou06_shiroichimojiyotou_soshin.pdf

きゅうり：コナジラミ類(タバココナジラミ:退緑黄化病)

タバココナジラミ
※

コナジラミ類成虫*

特徴

- ◆ タバココナジラミやオンシツコナジラミが加害する。
- ◆ 葉の汁を吸ってネバネバした液を排泄し、その上にすす病が発生するため、葉や果実が黒く汚れる。
- ◆ 多発すると株全体が弱り、収量も減少する。
- ◆ タバココナジラミは、キュウリ退緑黄化病※1の原因ウイルスを媒介する。
- ◆ CCYVに感染すると、葉に退緑小斑点を生じ、次第に小斑点が増加・癒合しながら徐々に黄化する。
- ◆ キュウリのウイルス病(退緑黄化病や黄化えそ病等)は見た目で見分けることは困難である。

※1:ウリ類退緑黄化ウイルス(CCYV)によるウイルス病。
きゅうり、メロン、すいか等に感染する。

防除のポイント

- ◆ コナジラミの発生を認めたら、グレーシア乳剤、アフアーム乳剤、トランスフォームフロアブル等を散布する。
- ◆ 退緑黄化病は、CCYVを媒介するタバココナジラミの防除の徹底が重要。
- ◆ 発病株はほ場外へ持ち出し処分する。

令和6年8月29日発出の病害虫発生予察注意報第5号「コナジラミ類」についてもご参照ください。

https://www.pref.osaka.lg.jp/documents/84527/2408_chuuihou05_konajiramirui_soshin.pdf

退緑黄化病被害株※

農薬を使用する際には、必ず農薬のラベルを確認してください。

病害虫の発生予報(10月)

A 果樹

| 品目 \ 程度 | 少ない | やや少ない | 平年並 | やや多い | 多い |
|---------|-----|-------|---------|------|----|
| 果樹類全般 | | | 果樹カメムシ類 | | |
| みかん | | | 黒点病 | | |
| | | | そうか病 | | |
| | | | ミカンハダニ | | |

B 野菜

| 品目 \ 程度 | 少ない | やや少ない | 平年並 | やや多い | 多い |
|------------------|-----|-------|--------------|----------------------------|-------------------|
| 野菜類全般 (キャバツ等) | | | | | シロイチモジ ヨトウ |
| | | | | ハスモンヨトウ | |
| | | | コナガ | | |
| | | | オオタバコガ | | |
| | | | アブラムシ類 | | |
| ねぎ | | | | ネギアザミウマ (えそ条斑病) | |
| きゅうり | | | | べと病 | |
| | | | うどんこ病 褐斑病 | | |
| | | | | ミナミキイロ アザミウマ (黄化えそ病) | |
| | | | | | コナジラミ類 (退緑黄化病) |
| なす | | | | うどんこ病 | |
| | | | | アザミウマ類 | |

果樹

果樹類全般

果樹カメムシ類



チャバネアオカメムシ

特徴

- ◆ チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシなどが加害する。

防除のポイント

- ◆ 園全体を目合い4mmのネットで覆い、侵入を防止する。
- ◆ 発生を認めたら、スタークル(アルバリン)顆粒水溶剤(かんきつ、もも、かき、ぶどう、なしなど)、アディオン乳剤(かんきつ、もも、かきなど)等を散布する。

令和6年8月2日発出の病害虫発生予察注意報第4号「果樹カメムシ類」(本年2回目)についてもご参照ください。
https://www.pref.osaka.lg.jp/documents/84527/2408_chuuihou04_kajukamemushirui_soshin.pdf

みかん

黒点病



被害果

特徴

- ◆ 雨が連続すると発生が増加する。
- ◆ 葉、枝、果実に感染して、微小な黒色、円形の病斑ができる。

防除のポイント

- ◆ 発生が見込まれる時期にジマンダイセン(ペンコゼブ)水和剤、ストロビードライフロアブル(かんきつ)等を散布する。降雨が多い場合には、散布回数を増やす。
- ◆ ジマンダイセン(ペンコゼブ)水和剤を使用する場合は、皮膚のかぶれに注意する。

そうか病



被害果(そうか型病斑)

特徴

- ◆ 降雨時間が長いと発病が多い。
- ◆ 葉、果実の表面に、直径1ミリ前後に隆起する「イボ型」や「そうか型」の病斑ができる。
- ◆ 果実の外観が悪くなり、糖が少なく、酸が多くなるなど品質が低下する。
- ◆ 果実で発病する期間は9月上旬ごろまでとされる。

防除のポイント

- ◆ 被害葉・被害果は早期に除去し、ほ場外へ持ち出し処分する。
- ◆ 夏秋梢の病斑は翌年の有力な伝染源となるので、剪定時にできるだけ除去する。
- ◆ チッソ質肥料の過用を避ける。
- ◆ 排水、通風を良好にする。

果樹

みかん

ミカンハダニ



被害葉

特徴

- ◆ 気温が高く、降水量が少ないと発生が多くなる。
- ◆ 葉表に体長0.5mmの赤色のダニが寄生して吸汁するため、被害部分は色が抜けて白くなる。
- ◆ 果実に寄生すると着色が遅れ、色がぼけて商品価値が低下する。

防除のポイント

- ◆ 発生を認めたら、ダニコングフロアブル(かんきつ)、スターマイトプラスフロアブル(かんきつ)等を散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布する。
- ◆ 薬剤を散布する場合は、葉裏にも薬液がかかるように散布する。

野菜

野菜類全般(キャベツ等)

ハスモンヨトウ



幼虫

特徴

- ◆ あぶらな科野菜、なす科野菜、さといも等多くの作物を加害する。

防除のポイント

- ◆ 発生を認めたら、アファーム乳剤(キャベツ、なす、ほうれんそうなど)、コテツフロアブル(キャベツ、さといも、さといも(葉柄)など)等を散布する。

ヨトウムシ類については「ヨトウムシ類の見分け方」をご参照ください。

https://www.jppn.ne.jp/osaka/color/yoto/yoto_l.pdf

令和6年9月5日発出の防除情報「シロイチモジヨトウ、ハスモンヨトウに注意！」もご参照ください。

https://www.jppn.ne.jp/osaka/R6th/boujyoyouhou/2409_R6bojo03_shiroichihason soshin.pdf

野菜類全般(キャベツ等)

コナガ



幼虫 ※



成虫 ※

特徴

- ◆ 主にあぶらな科野菜を加害し、葉を薄皮だけ残して食害する。
- ◆ 一部地域でジアミド系殺虫剤に対する抵抗性が生じている。

防除のポイント

- ◆ 同じ系統の薬剤を連用しないよう注意する。
- ◆ 発生を認めたら、ゼンターリ顆粒水和剤(野菜類など)、ディアナSC(キャベツ、こまつななど)等を散布する。

オオタバコガ



幼虫



卵

特徴

- ◆ 果実や茎などに食入する。食害痕のまわりに虫のフンが確認されることが多い。

防除のポイント

- ◆ 果実の食入孔の中にいるため薬剤がかかりにくく、さらに老齢幼虫には薬剤の効果が落ちるため、捕殺等も含めて早めに対応を行う。
- ◆ 発生を認めたら、プレバソンフロアブル5(なす、トマト、ミニトマトなど)、ディアナSC(なす、トマト、ミニトマトなど)等を散布する。

令和6年5月24日発出の病害虫発生予察注意報第2号「オオタバコガ」
についてもご参照ください。

https://www.pref.osaka.lg.jp/documents/84527/2405_chuuihou02-ootabakoga.pdf

アブラムシ類



ワタアブラムシ ※

特徴

- ◆ 作物を吸汁し、生育を阻害する。また排泄物にカビが発生し、すす病の原因となる。さらに、各種のウイルスを媒介し、作物によっては致命的な被害をもたらす。

防除のポイント

- ◆ 発生を認めたら、モスピラン顆粒水溶剤(キャベツ、しゅんぎく、なす、トマトなど)、コルト顆粒水和剤(キャベツ、なす、トマト、ミニトマトなど)等を散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布する。

ねぎ

ネギアザミウマ(えそ条斑病)



ネギアザミウマ



えそ条斑病の葉の病斑

特徴

- ◆ ネギアザミウマは葉を吸汁し、加害部は白く色が抜ける。
- ◆ えそ条斑病は、ネギアザミウマが媒介するウイルス病である。はじめ、葉身に紡錘型のえそ条斑を呈し、進行すると病斑が癒合拡大し、葉がしおれて枯死することがある。

防除のポイント

- ◆ えそ条斑病に対する有効な薬剤はないので、媒介昆虫であるネギアザミウマの防除を徹底するとともに、感染株を見つけたらほ場外へ持ち出し処分する。
- ◆ えそ条斑病の病原ウイルス(IYSV)は一部の雑草にも感染するので、ほ場内や周囲の除草を徹底する。
- ◆ ネギアザミウマの発生を認めたら、プレオフロアブル、アグリメック(アザミウマ類)等を散布する。なお、薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布する。

きゅうり

べと病



被害葉*

特徴

- ◆ 気温20～24℃で発生が多い。
- ◆ 下位葉に葉脈で囲まれた黄色角形の病斑ができ、上位葉へ拡大する。

防除のポイント

- ◆ 排水を良好にし、過湿を避ける。
- ◆ 施設栽培では換気に注意し、結露を避ける。
- ◆ 被害茎葉を早めに除去し、ほ場外へ持ち出し処分する。
- ◆ 肥料切れしないように、肥培管理に注意する。
- ◆ 発生を認めたら、リドミルゴールドMZ、アミスター20フロアブル等を散布する。

うどんこ病



被害葉*

特徴

- ◆ 施設栽培で、日照不足、やや乾燥時に発生が多い。
- ◆ 昼夜の温度差が大きくなると発生が多い。
- ◆ はじめ株の下位葉に小麦粉をかけたような病斑ができる。しだいに上の葉に広がり、葉面全体が白色の粉を振りかけたようになる。

防除のポイント

- ◆ 施設内の換気を良好にする。
- ◆ 被害葉を除去し、通風を良くする。
- ◆ 発生を認めたら、アフエットフロアブル、トリフミン水和剤等を散布する。

きゅうり

褐斑病



病斑

特徴

- ◆ 高温、多湿の施設栽培で発生が多い。
- ◆ 天井フィルムからの結露水のボタ落ちで発病が助長される。
- ◆ はじめ葉に円形・褐色の小型病斑を生じ、やがて灰褐色の5～10mm程度の不規則な病斑になる。多湿条件では病斑上に黒褐色のカビが生える。

防除のポイント

- ◆ 施設内の換気を良好にし、多湿にならないよう注意する。
- ◆ 被害葉・老化葉は早めに除去する。
- ◆ 発生を認めたら、カンタスドライフロアブル、プロポーズ顆粒水和剤等を散布する。

ミナミキイロアザミウマ(黄化えそ病)



ミナミキイロアザミウマ被害葉※

特徴

- ◆ アザミウマの発生初期は、葉の葉脈沿いにカスリ状の白い斑点を生じる。
- ◆ キュウリ黄化えそ病※1等のウイルスを媒介する。
- ◆ MYSVに感染すると、葉にえそ斑点を伴うモザイク症状や黄化等の症状を示す。

※1:メロン黄化えそウイルス(MYSV)によるウイルス病。
きゅうり、メロン、すいか、しろうり、にがうり等に感染する。

防除のポイント

- ◆ 施設の開口部を0.8mm目合いの赤色ネットで被覆し、成虫の侵入を防止する。
- ◆ ミナミキイロアザミウマの発生を認めたら、グレーシア乳剤(アザミウマ類)、アフーム乳剤(アザミウマ類)等を散布する。
- ◆ 黄化えそ病の発病株はほ場外へ持ち出し処分する。



黄化えそ病被害葉※

なす

うどんこ病



葉表の病斑



葉裏の病斑

特徴

- ◆ チッソ過多で気温が25～28℃、湿度が50～80%で日照不足が続くと発生する。

防除のポイント

- ◆ 発生を認めたらパンチョTF顆粒水和剤、ネクスターフロアブル等を散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布する。

アザミウマ類



ミカンキイロアザミウマ成虫※



被害果

特徴

- ◆ ミナミキイロアザミウマ、ミカンキイロアザミウマが果実や葉を加害する。なお、ミカンキイロアザミウマの果実被害は、「水なす」で目立つ。

防除のポイント

- ◆ 発生が見られたら、モベントフロアブル、ファインセーブフロアブル等を散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
- ◆ 雑草はアザミウマ類の生息場所となるため、ほ場内および周辺の除草を徹底する。